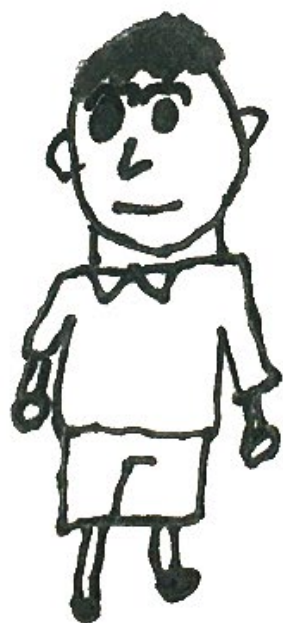
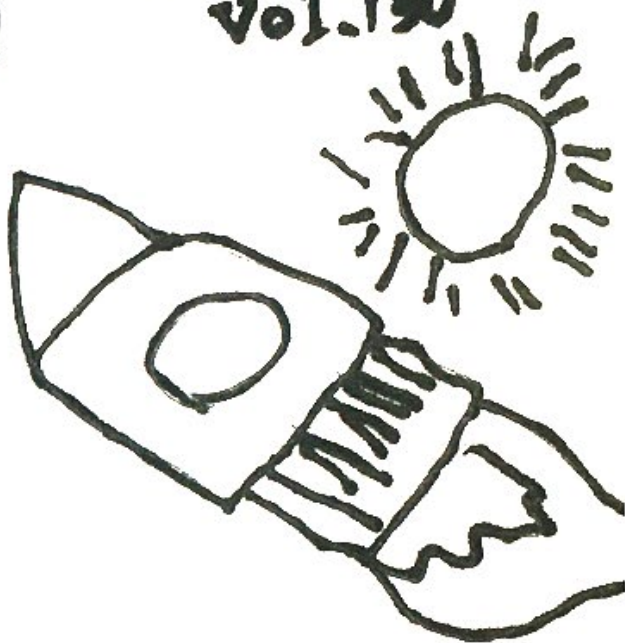
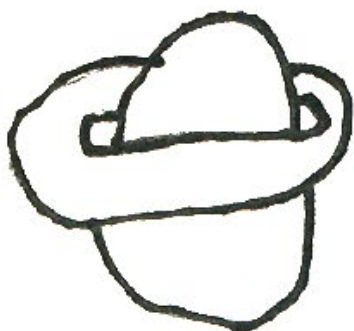


とよ ち 美肌通信

5月号
Vol.130





MAY

今月号のとびたち美肌通信の表紙は、

大きくて広い宇宙にたんけん旅行！

ロケットも太陽もあって、いつか宇宙に行ける日がくるのがまらどおしいですね！

糸会をかく専や、フレンチャッカーが好きで、

工作が得意な男の子が書いてくださいました！

ありがとうございます😊

院長はじめ

スタッフ一同、心より感謝いたします。



コロナ禍は2年目に突入したが、その猛威はウィルスの変異株出現により4波と称される感染者数の再上昇時期を迎え留まる所を知らない。

もはや2021年も5月であり、数ヶ月後には東京オリンピックが開催される予定であるが、はたして実施すべきか否か誤った判断をしてしまうと、取り返しつかない状態を招いてしまうであろう。

詩人であり書家の相田みづを氏の書に「そのときどう重たく」という作品がある。みづを氏の長男である一人^{かみづ}氏をもて、生涯みづを氏が最も大切にしていた言葉であるという。人生はいつどこで何が起こるか分からない。その時々^{時々}の出来事(有事)に対して相応しい判断を瞬時に行っていく事が求められるのである。そうこの書は念じているというのだ。またそうした有事というのは、同時に複数の問題を抱えているもので、これらにどう優先順位を付け対処していく必要があるかが問われるであろう。

みづを氏が好んでいた白隠^{はくいん}禪師の話を紹介する。白隠禪師を尊敬しているある商人がいた。その商人の娘がある時、身ごもった。娘は白隠禪師の子供だと言えは父親に許してもらえるのではと悪知恵を働かせて嘘をついた。それを聞いた父親は娘に手をつける

とはとんでもない坊さんだ」と激怒し赤ちゃんを抱いて
禪師の所に行き、「これはあなたの子だ」と詰め寄
った。すると禪師は「ああ、そうか」と言ってその子を受け
とった。父親はますます「やっぱりそうだったのか」と憤
慨して家に帰った。その後禪師がお乳をもらい歩き
する姿を見て、娘が父に本当の事を白状する。それを知
った父は禪師に平身低頭し謝罪した。父は何か嫌味
でも言われるかと思ったが、禪師は「ああ、そうか」と言って
赤ちゃんを返した。その時自隱禪師が何を考えたか
と言うと、自分が父親であるか否かという事ではなく生まれた
ばかりの乳飲み子の命を助けることが大事なんだと。
その後母親が現れた時にはやはり子供は母親が育てるの
が一番良い訣であるのですんなり返した。まさにその時どう
動くかという事の判断基準や優先順位が明解である
という事です。通常人間ですから自分の評判を気にしたり、
良く見られたい気持ちが入ってしまうもの。しかし今日の前にいる
子供の命に焦点が定っていたから平然と出来たのでしよう。
しかも元々自分を尊敬してくれていた人に濡れ衣を着せ
られたのだから、普通は否定してもおかしくなり所を、
ただ一言「ああ、そうか」は何か大切な事なのか分っている。

さて今年には日本のリーダーの器量が問われる年である。
その時日本がどう動くか日本のリーダーがどう動くか
は世界がきっと注目する所であろう。

院長 拝